あとがき

『東西南北』をお届けする時期となりました。

本号も、例年と同様、研究所シンポジウム報告と多岐にわたる研究プロジェクトによる研究論文・研究報告からなる300頁近い冊子です。

時々の社会的・学術的課題に関し、比較的平易な形で語られるシンポジウム報告は、『東西南北』創刊以来受け継がれてきたものですが、今回は、「中央ユーラシア」というカテゴリーによって、かつてシルクロードによって結ばれていた地域の文化や社会を捉えようとしたものです。今日の世界に対する私たちの認識を大いに広げてくれるものと思います。

研究プロジェクトからの寄稿は、4 論文からなるひとつの特集と 6 本の単独論稿です。内容は、研究論文、事例研究、調査報告、教育実践研究等、多様な形態の論稿ですが、いずれも共同研究という場において生まれた成果であり、学際的な領域のものも多く見られます。これらのものが、さらに深められ一層まとまった成果に繋がることを期待しています。

これらに加え、本号では、ブルターニュ文化に関するイヴ・ドゥフランス氏の講演記録を掲載できました。これは、「学術集会支援」という制度を活用した研究活動の記録ですが、これ以外にも、『ブラック・アトランティック』によって、注目を集めている、ポール・ギルロイ氏の講演や平和学の第一人者であるヨハン・ガルトゥング氏と武者小路公秀氏との「創造的平和」をめぐる対話など、この制度による貴重な催しがいくつか行われたのですが、時間の関係で本号に収録することができませんでした。次号での掲載を企図しています。

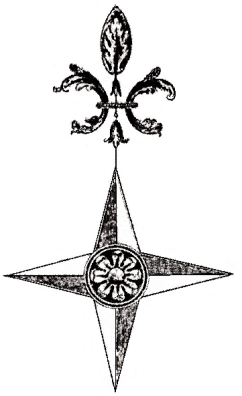
なお、最後に、昨年度末にこれまでの研究プロジェクトの成果として、

『マイノリティとは何か――概念と政策の比較社会学』（ユ・ヒョヂョン、岩間暁子編著、ミネルヴァ書房）

『歴史の悲歌が聞こえる――〈戦前〉としての今日』（杉本紀子編、未來社）

『死と来世の神話学』（永澤峻編、言叢社）

の 3 冊の単行本が出版されたことをお伝えしておきます。いずれも数年にわたる共同研究の結実であり、ともに喜びたいと思います。



和光大学総合文化研究所所長　山村睦夫